

坂本 1 号墳出土の金銅装頭椎大刀 （解説シート 3）

金銅装頭椎大刀は、簡単に言うと飾った刀のことです。

金銅（銅の金具を金で飾ったもの）の金具で飾られていて、大刀を握る部分の先がこぶしのように膨らんでいることから、「頭椎大刀」と呼ばれています。これは日本独特のもので、今から約 1400 年前の古墳時代に作られたものです。

ぜんぽうこうほうふん
前方後方墳である坂本 1 号墳から出土したもので、墓に埋葬されていた人が持っていたものを一緒に埋めたものと考えられます。その豪華さから、王のような人が埋められていたようです。

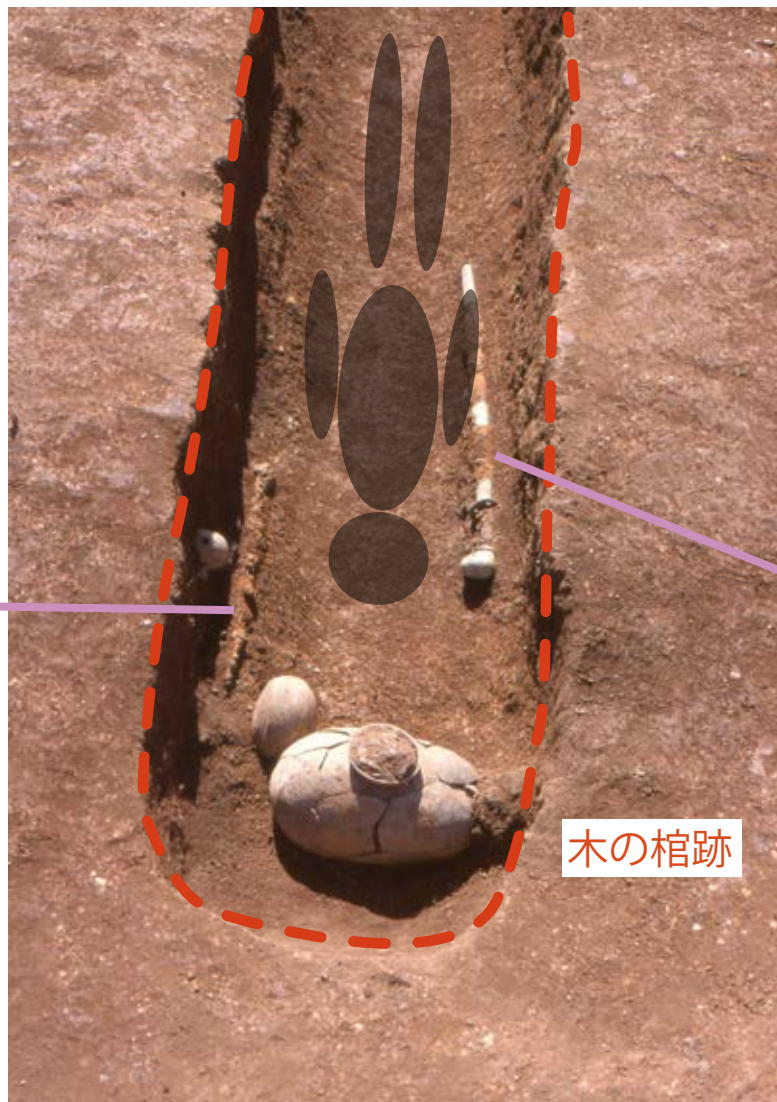
古墳時代には、天皇を中心とした国家である大和朝廷が作られつつあり（やまとちやうてい現在の奈良県にあった）、その大きな力を示すために作られたのが、この大刀であったと考えられています。

また、この大刀は天皇に認められた、ごく少数の人だけに渡されたと考えられており、当時の明和町にも大きな力を持った人がいたことがわかります。

おそらくはその人の存在が、当時の明和町に斎宮を置くきっかけになったのではないかと考えられています。今は県指定の有形文化財に指定されており、町の宝であることはもちろん、県の宝でもあります。（平成 13 年指定 有形文化財 考第 17 号）



鉄刀
（長 62.8cm）



坂本 1 号墳に大刀が埋葬されていた様子
（人物の位置は推定です。骨は残っていませんでした。）



金銅装頭椎大刀
（長 105cm）

実際に出土したものは、いま斎宮歴史博物館で大切に保管されています。

また、実際のものはさびが進行し、刀を抜くことや中を観察することはできませんが、X線写真を使って、どのような素材で作ったか、作り方はどのようなであったかなど、調査が行われました。

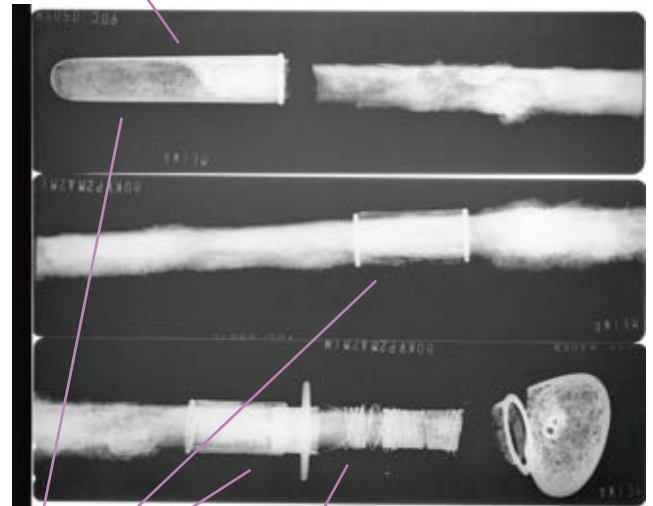
平成11年度に、その結果をもとにして復元品を作りました。当時の作り方を再現しながら、忠実に復元をおこない、金銅装頭椎大刀が現代によみがえりました。



金銅装頭椎大刀の部品のなまえ

黒く見えるのは、
木の鞘で、漆が3
重に塗られている
ことがわかりまし
た。

白く見えるのは、
大刀の切っ先の
部分です。先端
が鞘よりも短い
ことがわかりまし
た。



つかがしら、さやぐち、さやま
柄頭、鞘口、鞘間、
鞘尻には銅の金具
がつけられ、金で
装飾されています。

握りの部分は銀線
を巻いて装飾され
ています。

